DとX。
この２つのアルファベットがくっつくと、
大津町ではどのような変化が起こるのでしょうか―。
今回は気になるデジタルを取り巻く現状や町のデジタル化について特集します。

大津町のデジタル化を考える―。特集

大津のDX スタート編

10月2日と3日はデジタルの日です。２０２１年９月にデジタル庁が設立され、私たちの生活でもデジタルの言葉を聞くことが多くなりました。10年前にはスマホを当たり前のように使っていなかったでしょうし、情報を得るためにＬＩＮＥ（ライン）やfacebook（フェイスブック）Instagram（インスタグラム）などのＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーク・サービス）を活用することも少なかったでしょう。デジタル社会の実現は身近なところまで来ています。

令和の時代の中で、急激に進むデジタル化、さまざまな課題もありますが、私たちの生活を豊かに幸せにしてくれる一面も持っています。そんなデジタルを活用できるよう、町はデジタル化を進めます。今年５月にデジタル化の考え方の一つであるＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）を推進するために大津町ＤＸ推進本部を設置しました。住民の皆さんの利便性の向上や大津町がもっと暮らしやすくなるように、これからＤＸ推進計画の策定や作業部会「ＤＸワーキンググループ」を定期的に開催し、デジタルを使って住民サービスの向上や業務効率化などを検討しています。

ＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）とは

「DX」とは、デジタルと、変革を表す「トランスフォーメーション」を合わせた言葉で、2004年、スウェーデンのウメオ大学のエリック・ストルターマン教授が提唱した概念です。その内容は「テクノロジーの浸透が人々の生活をあらゆる面で豊かにしていく」というものでした。しかし、町などの自治体が行うDXは「行政や地域、社会などにおいて、デジタル技術を活用して、新しい価値や仕組みを生み出すために変化する過程」と捉えられています。ここで大事なのは、デジタル技術を活用することではなく、新しい価値や生み出すことです。デジタル技術を導入することが目的ではなく、より良い仕組みを作るために、可能であればデジタル技術を活用することがDXの趣旨であると考えられます。

X？

D？

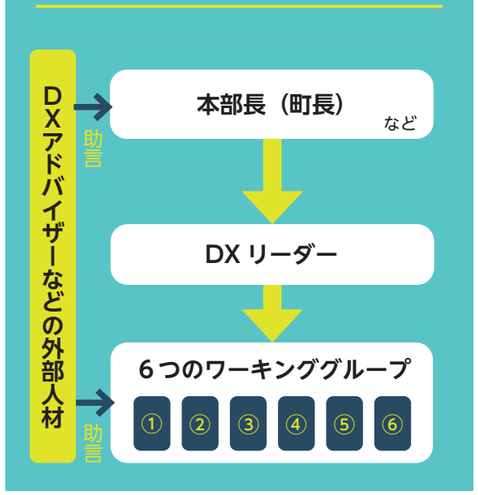
ＤＸを強力に進めるために大津町ＤＸ推進本部を設置

大津町DX推進本部は、町のDXを推進するために設置しました。金田町長を本部長とし、各部長がDX推進委員として組織全体でDXを進めます。今年度は「大津町DX推進計画」を策定し、大津町全体のデジタル化や住民サービスの向上のために、町の方向性を決めていきます。

また、
①「情報システムの標準化・共通化」
②「行政手続きのオンライン化」
③「窓口改善」
④「行政施設予約システム」
⑤「キャッシュレス化」
⑥「GIS（統合・公開）」※地図情報システム

の６つのワーキンググループ（各課を横断して専門的な検討を行う作業部会）で、地域DXや行政DXの推進を行います。

大津町ＤＸ推進本部イメージ



行政と地域のDXを推進

column

「DX」の「X」って何？

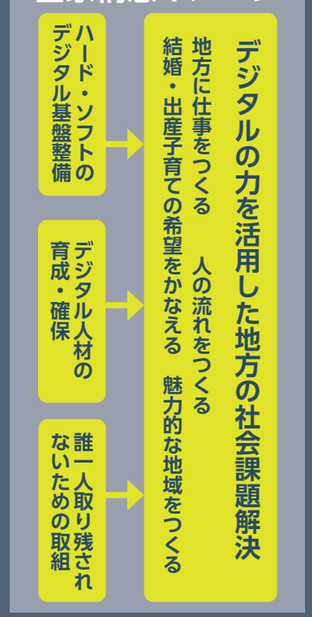
Digital（デジタル）のD、Transformation（トランスフォーメーション）のXで「DX」（ディーエックス）と呼ばれています。
あれ？と思われた人もいるのではないでしょうか。「X」は「T」じゃないかと。
実は、英語ではTrans（トランス）をXと略することがあります。例えば「Transfer」（トランスファー）は「Xfer」と略されることもあるのです。なので、デジタル・トランスフォーメーションは「DX」と表現されます。言葉って面白いですね。

デジタル田園都市国家構想とは―。

それはデジタルを使った新しい地方創生

デジタル田園都市国家構想は、国が提唱する地域活性化をより進めるための新しい取り組みです。国は構想が目指す中長期的な方向性を示し、地方の取り組みを支援します。そして、町はデジタルの力を活用し、地域の問題を解決することで「全国どこでも誰もが便利で暮らせる社会」を目指します。

デジタル田園都市国家構想イメージ



今後、デジタルを活用した地域の取り組みが大津町で活用できるかもしれませんし、もしかしたら大津町のデジタルの取り組みが、全国の地域で活用されるときが来るかもしれません。